（政ー様式4）重点施策調書

様式4（例）

資料１　関連参考資料

①施策名	活力2-（1）多様な地域との交流・連携と定住・二地域居住の推進		
②細項目	①県内における交流の促進 ②定住・二地域居住の推進 ③広域的な交流・連携の推進	③細項目コード	2211 2212 2213
④主担当課	観光交流局　観光交流課	⑤関係部局	観光交流局、企画調整部、文化スポーツ局、土木部、農林水産部

【現状分析】

⑥指標の分析	○教育旅行における県内宿泊者数（県内学校分） ・少子化、自治体間競争の激化等により平成18年度○○人→平成20年度○○人と年々減少。 ○ふくしまファンクラブ会員数 ・平成21年度　○○人（○○人の増加）　各種イベントや積極的な会員募集活動による。 ○FIT地域における観光客入込数 ・平成17年～19年まで微増。平成22年微減するものの、今後微増が見込まれる。 ○・・・・・・・・・・
⑦社会経済情勢等	○不況による旅行者の減少。 ○経済情勢の激変などを背景に、健康で安らぎのある、自然豊かな生活を求める方が増加。 ○定住・二地域居住の取組みに係る他県との競争の激化。 ○過疎化、高齢化の進展により、活力の低下や担い手の減少などが課題となっている地域の存在。 ○・・・・・・・・・・
⑧平成21年度の主な取組み実績・成果	○ふくしまグリーン・ツーリズム促進事業 ・受入れ数が○○人超 ○ふくしま定住・二地域居住推進戦略事業 「ふくしまふるさと暮らし情報センター」の運営、ふくしまファンクラブの運営など。 ・相談件数　○○件　　ふくしまファンクラブ会員数　○○人（累計） ○広域観光推進事業 ・3大都市圏からの教育旅行の誘致を実施。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・
⑨平成22年度の主な取組み	○（新）ふくしまふるさと体験交流促進事業 ・子供農山漁村交流プロジェクトの受入体制整備、誘致活動の促進等 ○（新）田舎に住んで民家促進事業 ・「空き家、古民家相談センター」を設置し、各種団体と連携して空き家等の改修を技術的に支援。 ○広域観光推進事業 ・「おくの細道」をテーマにしたプロモーション活動、中国人富裕層等をターゲットとした誘客活動。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・

【課題整理】

⑩施策を推進する上での課題	○グリーンツーリズム、定住・二地域などにおいて地元の受入体制の整備が必要。 ○県民自身の福島県の魅力・素晴らしさの認識が不十分。 ○首都圏住民に対する福島県のPRが、まだまだ不十分。特に、女性や現役世代において、移住先としての福島県の認識がまだまだ不足。 ○広域観光ルートの開発などのに当たって、各県ごとの実施団体の組織上の特徴などから連携がうまくできていない。 ○・・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・・

【今後の取組みの方向性】

⑪今後の取組みの方向性	○グリーン・ツーリズムや定住二地域居住の推進に当たり、市町村と連携して受入体制の整備を図る。 ○県民に福島県の魅力・素晴らしさを再認識してもらい、個々人がその体験したこと等を情報発信できる体制作り。 ○魅力的な内容の首都圏イベントを開催。女性や現役世代に対する効果的なPR・情報提供。 ○観光などで広域連携を進めるに当たり、相手方組織との間で互いにメリットのある取組み推進。 ○・・・・・・・・・・

様式3（細項目）
①県内における交流の促進（→例の1）
②定住・二地域居住の推進（→例の2）
③広域的な交流・連携の推進

とりまとめ →

様式4を作成

【自己評価の全体ストーリー】

〔現状分析〕

（1）指標上、県内の交流や広域交流の動きは思わしくはないが、本県に対する定住・二地域に対する関心は高まっているといえる。

（2）社会経済情勢としては、不況や他県との競争等、交流を進める上での制約が高くなっている。

（3）県としては、特に、文化・スポーツを通じた交流や定住二地域居住の推進等において、一定の成果を上げてきた。

〔課題整理〕

（4）それでも、地元の受入体制の整備や特に女性や現役世代に対するPR、他県との広域連携などおいて、まだ対応すべき課題がある。

〔今後の取組方向〕

（5）そのため、市町村、関係団体と連携し、効果的なPRや受入体制の整備など、取組み方法の改善にさらに努めていく。

【主な審議事項】

●指標の状況や社会経済情勢の変化、県の取組状況から、さらに力を入れるべきところはないか、これ以外に課題がないか、県が担うべき役割を踏まえた課題となっているか等について検討する。

様式3での検討を踏まえて、重点施策全体として特に重視すべき課題が上がっているかを検討する。

【主な審議事項】

●課題を効果的に解決するため、取組みの方向性はこれでよいかを検討する。

様式3での検討を踏まえて、重点施策全体として特に重視すべき取組みの方向性が上がっているかを検討する。

様式3（例の1）

（政ー様式3）細項目調書

①施策名	活力2-（1）多様な地域との交流・連携と定住・二地域居住の推進		
②細項目	①県内における交流の促進	③細項目コード	2211
④主担当課	観光交流局　観光交流課	⑤関係部局	観光交流局、文化スポーツ局
⑥細項目の具体的な取組み	ⅰ　文化やスポーツなど市町村間におけるさまざまな相互交流を促進します。 ⅱ　県民に対する県内各地の魅力のPRなど県内における観光等の促進を通じて、生活圏内外の交流の活発化を図ります。		

【現状分析】

⑦指標の分析	○教育旅行における県内宿泊者数（県内学校分） ・平成18年度○○人、平成19年度○○人、平成20年度○○人と年々減少。 ・少子化による生徒・児童数の減少、不況による教育旅行実施数の減少、各自治体間における教育旅行誘致活動の激化による。
⑧社会経済情勢等	○県内道路整備による7つの生活圏のネットワーク化 〔開通〕甲子道路（国道289号線）（県南-南会津） 〔今後開通〕常磐自動車道（相馬IC-山元IC）、阿武隈東道路、霊山道路 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・
⑨平成21年度の主な取組み実績・成果	○うつくしま文化元気ルネサンス事業 ・ルネサンス宣言大会の開催、文化イベント等紹介冊子配布 ○ふくしまグリーン・ツーリズム促進事業 ・受入れ数が○○人超 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・
⑩平成22年度の主な取組み	ⅰ うつくしま文化元気ルネサンス事業 ・合唱や伝統芸能の発表・鑑賞を実施 ⅰ ・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・ ⅱ （新）ふくしまふるさと体験交流促進事業 ・子供農山漁村交流プロジェクトの受入体制整備、誘致活動の促進等 ⅱ ・・・・・・・・・・・

【課題整理】

⑪細項目を推進する上での課題	○グリーン・ツーリズムへの受入体制等にまだ整備の余地あり。 ○教育旅行の誘致活動が不十分で、メニューにおいても工夫の余地あり。 ○県民自身の福島県の魅力・素晴らしさの認識が不十分。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・

【今後の取組みの方向性】

⑫今後の取組みの方向性	○グリーン・ツーリズムの実施にあたり、受入体制の整備を図る。 ○教育旅行では、官民一体の誘致活動を強化し、またメニューの一層の充実を図る。 ○県民に福島県の魅力・素晴らしさを再認識してもらい、個々人がその体験したこと等を、生活圏内外の広報誌等で情報発信し、生活圏域を超えた交流を活発化させる体制作りが必要。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・

【自己評価の全体ストーリー】

〔現状分析〕

①少子化、経済不況等により、指標上、県内の交流状況は思わしくない。
②しかし、県内の交通ネットワークづくりは進んでいる。
③そうした中、文化、グリーンツーリズム、子どもの農山漁村交流などに取り組み、一定の成果がでてきている。

〔課題整理〕

④ただ、個々の分野の取組みの詳細を見ると、まだ、改善すべきところがあるとともに、県民自身の本県の魅力に対する認識不足をどう改善するかが課題である。

〔今後の取組方向〕

⑤そのため、官民一体の対応など、取組み方法の改善を図る。

【その他の審議事項】 他に考慮すべき社会経済情勢が漏れていないか？

「課題」や「今後の取組みの方向性」を検討するために必要な範囲で「主な取組み」の内容について確認を行う。

【主な審議事項】

●指標の状況や社会経済情勢の変化、県の取組状況から、さらに力を入れるべきところはないか、これ以外に課題がないか、県が担うべき役割を踏まえた課題となっているか等について検討する。

＜例えば＞

・県内での交流を図る上で、県内生産物の消費拡大など、他の施策とつなげることを視野に入れた取組みも検討すべきではないか？
・市町村自身の県内での地域間交流への関心を高めるための取組みが必要ではないか？　・・・・・・・・・・etc.

【主な審議事項】

●課題を効果的に解決するため、取組みの方向性はこれでよいかを検討する。

＜例えば＞

・地産地消や地域の産業振興の取組みとの連携を図るべきではないか？
・市町村との連携の視点をいれるべきではないか？　・・・・・・・・・・etc.

様式3（例の2）

（政ー様式3）細項目調書

①施策名	活力2-（1）多様な地域との交流・連携と定住・二地域居住の推進		
②細項目	②定住・二地域居住の推進	③細項目コード	2212
④主担当課	観光交流局　観光交流課	⑤関係部局	土木部、農林水産部

⑥細項目の具体的な取組み	ⅰ　市町村や民間団体との連携などにより、県内における定住・二地域居住の受入体制の強化を図ります。 ⅱ　新聞やテレビなどのマスメディアやインターネットなど、多様な媒体を活用した情報発信を推進し、定住・二地域居住先としての本県の認知度向上を図ります。 ⅲ　首都圏などにおける相談窓口などにより、本県への定住・二地域居住の誘導を図ります。 ⅳ　定住・二地域居住者と地元住民との交流の促進などにより、地域の活性化を図ります。

【現状分析】

⑦指標の分析	○ふくしまファンクラブ会員数 ・平成21年度　○○人（○○人の増加）　各種イベントや積極的な会員募集活動による。 ○ふくしまふるさと暮らし情報センターにおける相談件数 ・平成21年度　○○件（前年対比○○%の増加）　広報強化による。
⑧社会経済情勢等	○経済情勢の激変などを背景に、健康で安らぎのある、自然豊かな生活を求める方が増加。 ○他県も定住・二地域居住の取組みを進めており、他県との差別化が難しくなっている。 ○過疎化、高齢化の進展により、活力の低下や担い手の減少などが課題となっている地域がある。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・
⑨平成21年度の主な取組み実績・成果	○ふくしま定住・二地域居住推進戦略事業 「福島ふるさと暮らし案内人」の認証、「ふくしまふるさと暮らし情報センター」の運営、田舎暮らしの本での6か月の集中キャンペーン、ふくしまファンクラブの運営など。 ・相談件数　○○件　　ふくしまファンクラブ会員数　○○人（累計） ○ふるさと福島大交流プロジェクト ・池袋サンシャインシティにおいて、福島県を総合的にPRするフェアを開催。　来場者　○○名 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・
⑩平成22年度の主な取組み	ⅰ ⅱ ⅲ ⅳ ふくしま定住・二地域居住推進戦略事業 ・新たに大阪に相談窓口を開設。受入体制充実のための研修会や情報交換会を実施。 ⅰ ⅱ ⅲ ⅳ（新）田舎に住んで民家促進事業 ・「空き家、古民家相談センター」を設置し、各種団体と連携して空き家等の改修を技術的に支援。 ⅰ ⅱ ⅲ ⅳ 農山村地域等活性化対策事業 ・都市住民等の滞在拠点となる滞在型市民農園の整備を支援。 ・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・

【課題整理】

⑪細項目を推進する上での課題	○女性や現役世代において、移住先としての福島県の認識がまだまだ不足。 ○円滑な移住のため、希望地の地域特性や経済状況、気候などの理解が必要。 ○移住先地域において、空き家所有者が賃貸、販売をしない傾向。 ○首都圏住民に対する福島県のPRが、まだまだ不十分。 ○・・・・・・・・・・・

【今後の取組みの方向性】

⑫今後の取組みの方向性	○女性や現役世代に対する効果的なPR・情報提供を実施していく。 ○モニターツアー等、移住体験ができる機会の提供により、田舎暮らし希望者の地域理解を促進していく。 ○市町村と連携し、空き家活用の取組みを促進していく。 ○首都圏住民に対する本県のPRのため、魅力的な内容の首都圏イベントを開催。 ○・・・・・・・・・・ ○・・・・・・・・・・

【自己評価の全体ストーリー】

〔現状分析〕

①指標上、本県に対する定住・二地域に対する関心は高まっているといえる。
②しかし、他県が同じような取組みを始める中、差別化が求められている。
③県としては、効果的なPR、相談支援や地元における受入体制の整備支援などを実施してきており、一定の成果を上げてきた。

〔課題整理〕

④それでも、女性や現役世代に対するPR、移住希望者の理解促進、空き家の確保など、受け入れ地域の体制整備などおいて、まだ対応すべき課題がある。

〔今後の取組方向〕

⑤そのため、市町村、関係団体と連携し、効果的なPRや受入体制の整備にさら

【その他の審議事項】 他に考慮すべき社会経済情勢が漏れていないか？

「課題」や「今後の取組みの方向性」を検討するために必要な範囲で「主な取組み」の内容について確認を行う。

【主な審議事項】

●指標の状況や社会経済情勢の変化、県の取組状況から、さらに力を入れるべきところはないか、これ以外に課題がないか、県が担うべき役割を踏まえた課題となっているか等について検討する。

＜例えば＞

・定住・二地域居住の受け入れ側地域の体制整備を図る上では、移住希望の円滑な移住という視点だけではなく、地域づくりの観点も入れていく必要があるのではないか？　　・・・・・・・・・・etc.

【主な審議事項】

●課題を効果的に解決するため、取組みの方向性はこれでよいかを検討する。

＜例えば＞

・過疎中山間地域における地域づくりと定住・二地域居住を連動させるため、移住者とどのように地域づくりをしていくか（例：空き商店の経営を地域住民が支援等）を地域において検討する仕組みを作る。　　・・・・・・・・・・etc.